

随想 常識とセンス

「安売りタマゴ」の氾濫に抱く危惧

加藤 宏光

九月二十五日の朝日新聞社会面に《教師が冗談『おいしいお菓子よ』―女子高生、ホウ酸団子誤食》という記事があった。内容は以下のようなものである。

大阪市の府立高校で二十一日、家庭科の女子教諭が自宅で作り、職員室の机や床に置いていたゴキブリ駆除用ホウ酸団子を女子生徒に「これ何？」と聞かれ、「冗談で「自分が作ったおいしい菓子」と答えたところ、この生徒は教諭の目を盗んでこの団子を三分の一ほどかじり、「まずい」と吐き出した、とのことである。く

だんの生徒は病院で胃洗浄を受けて、中毒症状はないという。この教諭は、「今の生徒の多くはホウ酸団子を知らない。不用意な発言だ」と校長に厳しく注意された、と述べられている。

事件の詳細を知らないため批判が当たるか否かはわからないが、教諭が責められているのはいかにも不自然に感じられてならない。

① 高校生なら最低一五歳で、社会的な判断力を持ち始めている

② 団子は机や床に置いてあり、食物の扱いとは異なるはず

③ 職員室で教員の目を盗んでつまみ食いをする神経は正常か？

といった点を前提として、第三者の立場で感じたことは、「教諭は自宅で職場用のホウ酸団子を作っているのであるから、自ら進んで仕事に励むタイプの人であつたらう。上の事情で問題が生じたとして、一方的に責任を問われるなら、仕事に対して前向きに努力する姿勢に対してマイナスのインセンティブを与えはしないのだろうか？」。

この教諭と生徒の仲がとくに親密でたまたま起きたジョー

クの余波であつた場合には、さして目くじらを立てるほどのものではなく、感じられる不自然さは、マスコミによる、責任を過剰に追及する姿勢がエスカレートしているからかもしれない。とはいっても、ニュースとしては、少なからず目を引くものであつた。

一方、同じ日の（九月二十五日）土曜版b9面に「粗悪なレモンに気をつける―アカロフのレモン市場理論―」と題したコラムがある。今、マスコミで売れっ子の、勝間和代氏（経済評論家）の論評である。氏の説によれば、逆選

抜（悪いものが選ばれる現象を逆選抜というらしい）という現象を解説して「ジョージ・アカロフによって明らかにされた、中古車市場でなぜ低品質の車が優勢を占めるのか」についてわかりやすく述べている。それによれば、中古車市場で品質の良し悪しは売り手にはよくわかっている。しかし、買い手は品質に対しての情報が十分でないため、質の高い車に安い金しか払わなかったり、質の悪い車に高い金を支払ったりする。売り手にとっては後者の方が利益率が高いため市場にはレベルの低い車が氾濫することになる、というのである（レモンとは質の悪い欠陥車の俗称）。

このような例は耐震偽装新築住宅、産地偽装の食品等数多い、と解説した上で、税と行政の質や情報開示の重要性に論を進めている。

これらの市場で逆選別という現象が生じる要因は、製品

の品質に均質性を欠くことにある（新車では品質の均一性がメーカーの信用をもって保証されているためにレモン市場に巻き込まれない）。メーカーに限らず、販売する商品の品質保証を、情報開示することによって行うことができるのも容易に理解できる。

著者は、一般論への引用に氏の論を参考にしようとしているのではない。タマゴの品質へ目を向けたとき、レモン市場に類似の現象が起きていると気付くことが少なくない。

タマゴの品質は素人とは言わず、プロにとっても見極めがなかなか難しい。卵の品質を左右する要因として、①飼料の品質・内容、②季節要因や鶏種、③産卵後の経過日数などで品質は微妙に変わる。タマゴの品質を問うとき、卵殻の状態が先ず目を引く（卵殻に傷があるものは言うにおよばず、いわゆるザラ玉も良質な顧客には識別される）。さら

に割った際には卵黄色と濃厚卵白の盛り上がり（ハウ・ユニット＝HU）が気付かれやすい。商品生命を左右する品質劣悪なものは論外として、色やHUの均一性は専門知識がなくともすぐに気付かれるが、味に関しては好みという個人差が、これらの違いを種々のパターンでマスクしてしまふからである。結局は顧客の信頼を裏切らない、誠意をもった生産姿勢と品質情報の開示で製品の品質を保証するしかあるまい。

他の農産物と同様にタマゴでも製品の品質をメーカー（生産者）が保証する試みとしては、生産者が消費者へアピールする方法として「顔の見える生産者」という宣伝がある。これも開示する情報がファジーである農産物において、アナログで情報を開示する姿勢を訴えているものといえる。著者が「安売りタマゴ」の氾濫に危惧を抱くのは、中

古車市場で確認されているレモン市場現象と同じものをわれわれの市場に取り込んでしまふ危険を感じられるからである。

ゴキブリ対策用ホウ酸団子を盗み食いするのを非常識と感じるなら、利益性追求により本来までもであるべき市場をレモン市場に変化させてしまふことに対しても非常識を感じるセンスを持ちたいものである。